

ヘルスケア海外短信

ヘルスケアに関する海外の最新動向等情報提供

目 次

アカデミア（大学、学会、研究機関、学術雑誌など）	1
◆臭いでパーキンソン病の早期診断	1
◆ワイヤレスフレキシブルセンサーで新生児のバイタル信号をモニタリング	1
◆カルシウムの摂取は加齢性黄斑変性症のリスクを上げない	1
行政（承認情報、法律、規制、指針など）	2
◆培養肉の規制に関するFDAと農務省の管轄が決定される	2
◆中国が2018年の医療インフラに関する統計を発表	2
◆中国が2018年の医療保険に関する統計を発表	2
◆FDAが医療機器開発用のバイオマーカーとして利用されるソフトウェアの使用を許可	2
◆攻撃を受けたエボラウイルス感染症治療施設が医療活動を中止	3
◆FDAが手術支援ロボットによるがん治療に対して警告	3
◆FDAのゴットリーブ長官が辞任	3
◆FDAが発がん物質汚染を受けて、新しくジェネリックのバルサンルタンを承認	3
◆FDAが乳房インプラントメーカーに警告文を発行	3
◆FDA、一酸化炭素中毒の治療機器の販売を許可	4
◆FDA、うつ病治療用スプレー式点鼻剤を承認	4
◆FDA、産後うつ病の治療薬を承認	4
◆FDA、重症の慢性心不全に対する医療機器を承認	4
◆FDA、多発性硬化症の治療薬を承認	4
◆FDAが希少疾患の臨床試験における歴史データ使用に関するガイドライン案を発表	5
◆FDA、脊椎関節炎の治療薬を承認	5
◆中国が医療保険の保障水準の向上を図る改革を推進	5
企業（提携、M&A、プレスリリースなど）	6
◆アップルがアップルウォッチの心房細動検出機能に関する臨床結果を発表	6
◆バイオジェンとエーザイがアルツハイマー型認知症治療薬の開発を中止	6

2019年4月

株式会社 旭リサーチセンター

アカデミア（大学、学会、研究機関、学術雑誌など）

◆臭いでパーキンソン病の早期診断

2019年3月、英国のマンチェスター大学などの研究グループは、臭い物質によってパーキンソン病を早期に診断できる可能性があるとして発表した。パーキンソン病の患者を臭いで判断できる嗅覚を有する人は、患者の皮脂に含まれる揮発性化合物によってその判断を行っていることが明らかになった。皮脂成分をGC-MSで分析したところ、パーキンソン病の患者では、ペリラルデヒドが減少し、馬尿酸、エイコサン、オクタデカノールが増加していた。臭いの強度はパーキンソン病の進行にともなって増加するため、早期診断に応用できる可能性がある。

<https://www.manchester.ac.uk/discover/news/smell-of-skin-could-lead-to-early-diagnosis-for-parkinsons/>

◆ワイヤレスフレキシブルセンサーで新生児のバイタル信号をモニタリング

2019年2月、米国のノースウエスタン大学などの研究グループは、彼等が開発した、配線や電池のない、肌のように柔らかいフレキシブルセンサーにより、新生児集中治療ユニット内の未熟児の呼吸、血圧、血中酸素濃度、心拍などのバイタル信号を、配線が必要な従来のセンサーと同等の精度でモニターできると発表した。このワイヤレスフレキシブルセンサーを用いれば、配線による新生児の動きの制約がなくなり、親との接触も容易になるとしている。

<https://news.northwestern.edu/for-journalists/press-kits/john-rogers/nicu/>

◆カルシウムの摂取は加齢性黄斑変性症のリスクを上げない

2019年3月、NIHは、カルシウムの摂取が加齢性黄斑変性症（AMD）を罹患するリスクを上げることではないので、健康上の理由からカルシウムサプリメントを摂取している者はそのまま継続するよう促した。これまで、過剰なカルシウム摂取がAMDの発症に関係するという説があった。AMDに対するカルシウムや食事内容、ほかのサプリメントの影響を調べた平均10年におよぶ臨床試験の結果から、カルシウムを多くとった被験者ほど、AMDを発症するリスクが低いことが明らかとなった。研究者らは、カルシウム自体に予防効果があるのか、あるいはカルシウムを適正に摂取する健康的な行動が影響しているかわからないとしているが、少なくともカルシウムの摂取がAMDを罹患するリスクを上げるとはいえないとしている。

<https://www.nih.gov/news-events/news-releases/nih-study-finds-no-evidence-calcium-increases-risk-amd>